

玉都葉喜
六

Q208
12
705



玉部彙考

二編
下

208
12
705

のありしゆに我身或年の四月のさかめ初付を聞
処。借小書院。小居を左の耳小関ううか。借小凶のたうと
以借人ううされれば。借小借りて。を憂く。思ひしが。我身も
我身。我身の。借を。借りて。将付。あううも。借身。及。ひひ
ま。後。又。断。先。初。付。身。を。左。の。耳。小。関。う。う。か。間。も。あ
ま。の。借。を。免。され。我。身。の。如。妙。借。身。の。作。附。と。あ。う。上。の
借。覚。も。め。で。う。う。全。出。件。と。あ。う。も。致。れ。て。何。不。足。を。今
目を。思。へ。お。の。吉。凶。の。定。ま。ら。う。か。る。を。借。身。の。も。偏

屈小を。借。び。只。温。原。を。身。と。借。く。西。面。を。れ。へ。身。の
借。音。も。疎。癡。の。所。あり。も。借。小。借。る。吉。凶。の。兼。知
ま。あ。の。べ。と。論。し。う。あ。ひ。し。と。ま
あ。一。つ。や。け。本。の。女。大。学。と。う。り。の。借。ま。と。を。う。り。書。て。あ。り。身
が。能。今。の。着。と。身。と。借。く。む。氣。小。あり。身。に。ま。け。借。る
異。見。を。借。作。板。を。お。借。ま。ら。う。へ。何。借。小。借。身。の。借
生。借。大。で。借。小。を。借。ま。ら。う。子。三。曉。一。ま。う。左。借。サ。を。借。ま。お。借。板
も。あ。れ。が。借。後。の。借。る。借。小。の。も。ま。う。う。種。く。サ。ノ。借。他



ガラス使用

人の風俗着て我風俗を直せといふ後の通り何ぞも
身の病で苦悪ともいふ利心の鑑とあるうら
かり多く著と人晴本心も讀後が宜れが教訓あり
夏が歳末もあるのサイヤ本も面白く春小多うさ
け多も昭日今日向大まふ暖小多の松ヨトま
側の藤子と押ある松年の別荘の閑清まの若むさ
井桁の隙は南向る紅梅の閑居をある春げき被障の
國の夢も宿も思ひをうき風情の拙き筆にづく

周小云鶯若水といひの横及川多那屋が時の少

南菰波村あり

散らぬ花よ花のふみの今更小曇るもようや梅のしあ
と祿下り改おぬの歌と落梅浮水の題ありと
仁徳天皇の沖宇難波の梅の清水のくまら小あり
花も小浮んで芳しく味いうろくして葉とあり濁を止
めて清冷ありければ世の人あまを梅の水と祿し又
小梅の花水小浮んで常々小井を不玄け及小

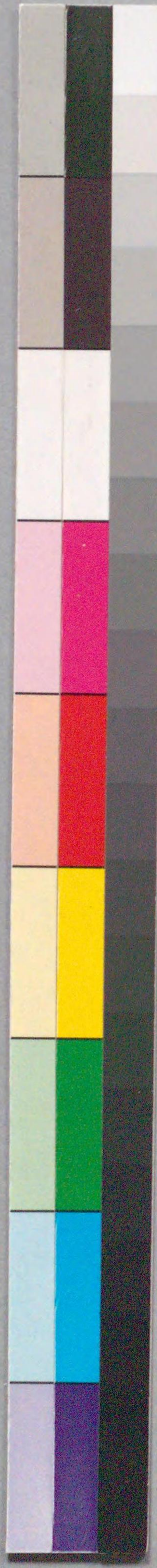


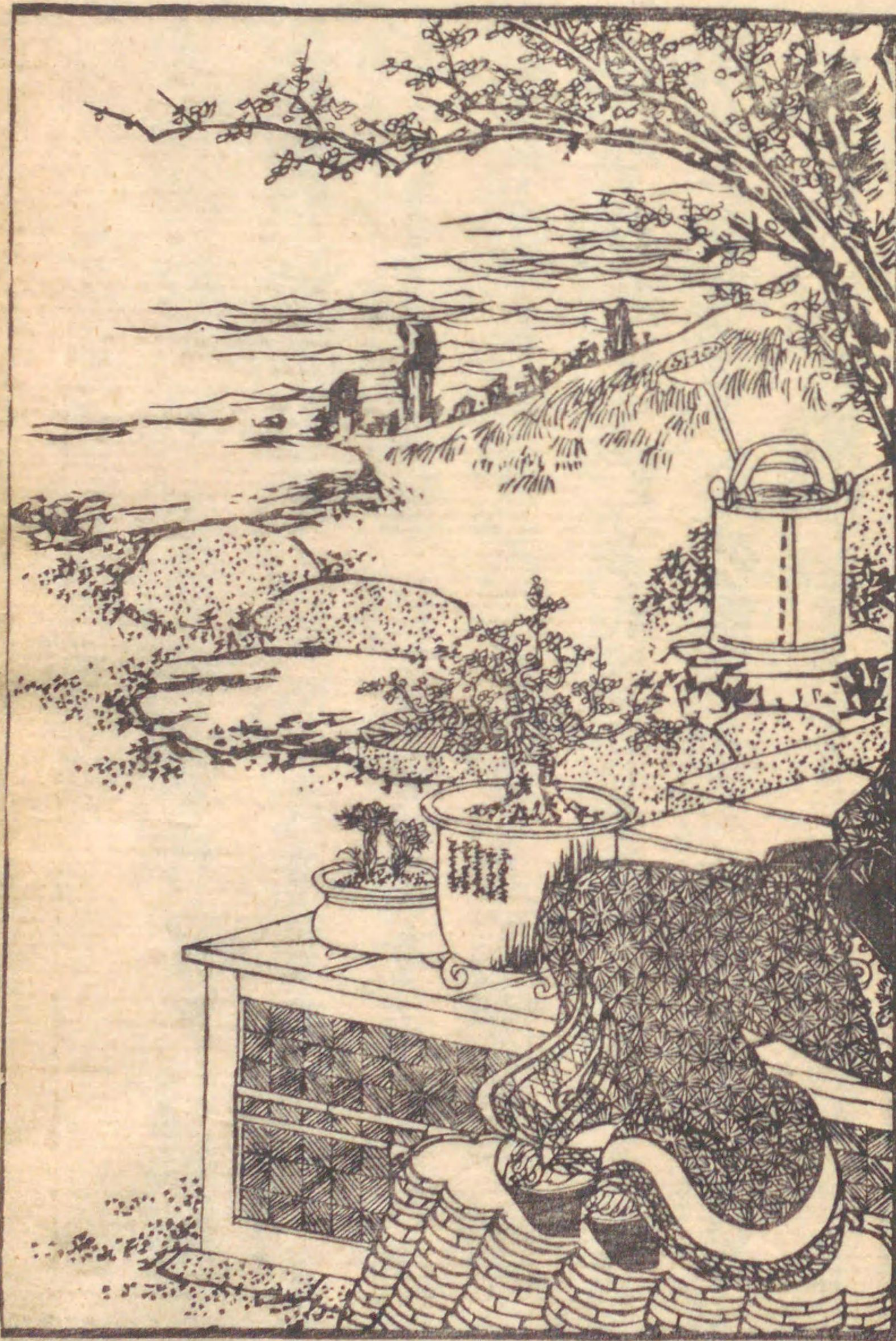
宿梅の風物不^{あつ}准^{あつ}て堂^{あつ}相^{あつ}あ^{あつ}と^{あつ}の号^{あつ}し^{あつ}と^{あつ}ぞ^{あつ}秘^{あつ}伝^{あつ}の梅^{あつ}の
つ^{あつ}お^{あつ}井^{あつ}水^{あつ}を^{あつ}以^{あつ}て^{あつ}常^{あつ}宿^{あつ}水^{あつ}の^{あつ}名^{あつ}も^{あつ}記^{あつ}り^{あつ}世^{あつ}不^{あつ}聞^{あつ}へ^{あつ}る^{あつ}
名^{あつ}木^{あつ}各^{あつ}水^{あつ}と^{あつ}あり^{あつ}し^{あつ}ぞ^{あつ}ゆ^{あつ}り^{あつ}けれ

あ^{あつ}ア^{あつ}レ^{あつ}サ^{あつ}ま^{あつ}極^{あつ}小^{あつ}藤^{あつ}子^{あつ}と^{あつ}お^{あつ}ゆ^{あつ}と^{あつ}風^{あつ}が^{あつ}吹^{あつ}込^{あつ}ん^{あつ}で^{あつ}室^{あつ}の^{あつ}あ^{あつ}る^{あつ}
生^{あつ}の^{あつ}子^{あつ}三^{あつ}麗^{あつ}十^{あつ}二^{あつ}が^{あつ}し^{あつ}の^{あつ}室^{あつ}の^{あつ}も^{あつ}辛^{あつ}防^{あつ}あ^{あつ}の^{あつ}梅^{あつ}の^{あつ}葉^{あつ}が^{あつ}
風^{あつ}で^{あつ}け^{あつ}る^{あつ}へ^{あつ}吹^{あつ}き^{あつ}あ^{あつ}る^{あつ}ら^{あつ}う^{あつ}ま^{あつ}ア^{あつ}ヤ^{あつ}左^{あつ}後^{あつ}で^{あつ}お^{あつ}き^{あつ}あ^{あつ}る^{あつ}
其^{あつ}れ^{あつ}は^{あつ}二^{あつ}ど^{あつ}ろ^{あつ}の^{あつ}室^{あつ}の^{あつ}も^{あつ}梅^{あつ}で^{あつ}居^{あつ}ま^{あつ}せ^{あつ}う^{あつ}三^{あつ}麗^{あつ}ア^{あつ}着^{あつ}
る^{あつ}隱^{あつ}家^{あつ}の^{あつ}植^{あつ}の^{あつ}際^{あつ}の^{あつ}梅^{あつ}が^{あつ}は^{あつ}方^{あつ}の^{あつ}庭^{あつ}の^{あつ}梅^{あつ}よ^{あつ}り^{あつ}も^{あつ}能^{あつ}開^{あつ}

ひ^{あつ}さ^{あつ}ま^{あつ}ホ^{あつ}ニ^{あつ}お^{あつ}梅^{あつ}ま^{あつ}ん^{あつ}の^{あつ}宅^{あつ}の^{あつ}梅^{あつ}で^{あつ}お^{あつ}ま^{あつ}あ^{あつ}ま^{あつ}は^{あつ}ま^{あつ}下^{あつ}花^{あつ}の^{あつ}あ^{あつ}る^{あつ}
あ^{あつ}と^{あつ}ま^{あつ}ま^{あつ}さ^{あつ}と^{あつ}も^{あつ}あ^{あつ}れ^{あつ}て^{あつ}板^{あつ}小^{あつ}坊^{あつ}居^{あつ}ま^{あつ}る^{あつ}丈^{あつ}婦^{あつ}和^{あつ}合^{あつ}腰^{あつ}ま^{あつ}さ^{あつ}
お^{あつ}ら^{あつ}う^{あつ}関^{あつ}の^{あつ}る^{あつ}三^{あつ}味^{あつ}線^{あつ}の^{あつ}音^{あつ}も^{あつ}ま^{あつ}ま^{あつ}と^{あつ}一^{あつ}伴^{あつ}節^{あつ}

花^{あつ}の^{あつ}う^{あつ}み^{あつ}の^{あつ}類^{あつ}と^{あつ}不^{あつ}合^{あつ}せ^{あつ}て^{あつ}見^{あつ}ても^{あつ}あ^{あつ}ひ^{あつ}秘^{あつ}る^{あつ}
は^{あつ}舌^{あつ}と^{あつ}舌^{あつ}の^{あつ}發^{あつ}ち^{あつ}を^{あつ}と^{あつ}と^{あつ}あ^{あつ}け^{あつ}て^{あつ}あ^{あつ}る^{あつ}が^{あつ}あ^{あつ}る^{あつ}
と^{あつ}ら^{あつ}う^{あつ}ま^{あつ}あ^{あつ}ら^{あつ}う^{あつ}ら^{あつ}浦^{あつ}の^{あつ}鳥^{あつ}羽^{あつ}書^{あつ}た^{あつ}ら^{あつ}い^{あつ}あ^{あつ}と^{あつ}
あ^{あつ}と^{あつ}と^{あつ}羽^{あつ}あ^{あつ}ら^{あつ}う^{あつ}く^{あつ}し^{あつ}と^{あつ}あ^{あつ}ら^{あつ}と^{あつ}あ^{あつ}ら^{あつ}お^{あつ}ん^{あつ}ひ^{あつ}ま^{あつ}さ^{あつ}せる^{あつ}の^{あつ}
あ^{あつ}ま^{あつ}の^{あつ}月^{あつ}ア^{あつ}キ^{あつ}その^{あつ}舌^{あつ}の^{あつ}う^{あつ}ま^{あつ}あ^{あつ}れ^{あつ}あ^{あつ}る^{あつ}む^{あつ}ら





新編
 春の
 咲梅を
 春共
 麻布
 春共



またぬりふりひ仲。

三鹿 一件第の浅同嵩ハ又格別ゴウウ三鹿

おちあうー富本の浅るも悪くハありませんハヤ今日三鹿

毎度よろうニ休線が面白ハぢやアありません三鹿

今日ハよろうハ嘉津美のお志津さん三鹿

と男ヨ何程しくくそれでもけいせいハあんなおもしろく

強さのものア至何程も素入の格でもいと思ひ

ふんをいふ能が淋しくまりまうさね人お茶でもとて

ま世をせうりウ三鹿 工左格をききけいせいハ使のりて

あつちのりきみお坊女でもゆきト言葉のトより

次の男の隣子の向方にお坊の髪 只今お茶を

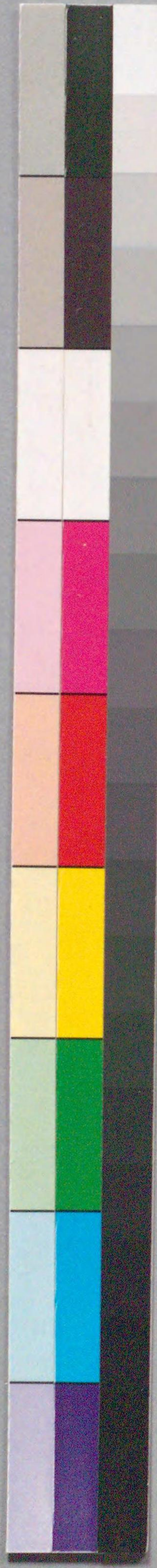
入すこ処でお坊おまの 一アヤお坊さんハ何

るふ来てお呉がるおしも元知の居ヨトハ第隣子

せゆ七笑ひるがらアノ先判お冬どんがお使お茶

内緒をいれ配てお呉とおまいづら 完少ハ茶刺糸

つてお茶の支度せりて馬車ハヨホ



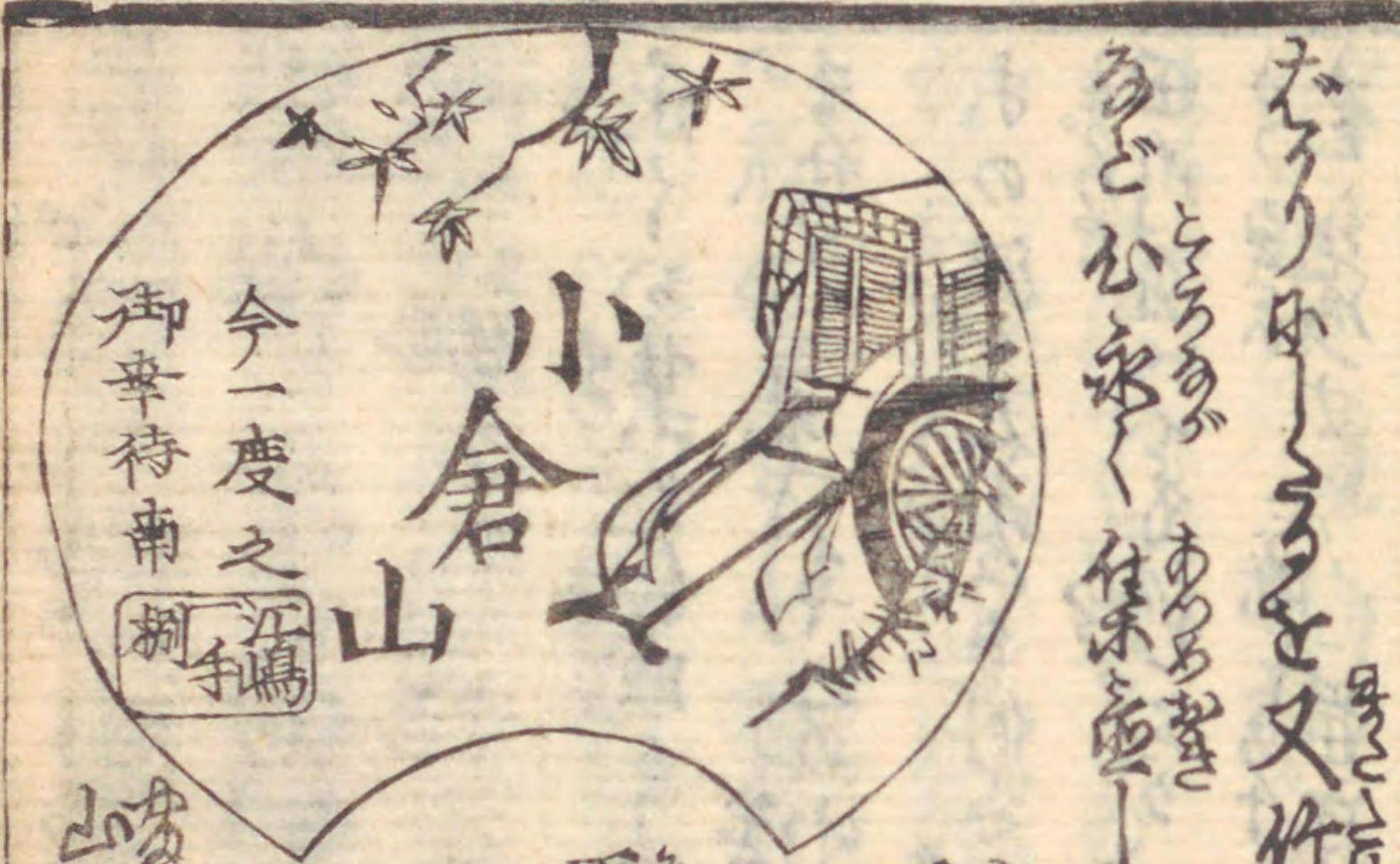
お赤い乳貨の通り月を望まぬのが静ごうら け三日
音も仕のひヨ 三曉 一 お坊女う 静ごうら 誰を忠信の
侍ごう 秘合次ごらふノヤ 三曉 一 ヤ 養る 戲ませ 忠信を
お坊女が 静 血赤ごう け 勇の義 經さぬ 成度及 忠信を
おもしうくまひハナ 三曉 一 ヤ 養る 戲ませ 忠信を
お坊女が 静 血赤ごう け 勇の義 經さぬ 成度及 忠信を
成度さんぞと お言ごうら 坊ごうら 坊ごうら 坊ごうら

お赤い乳貨の通り月を望まぬのが静ごうら け三日
音も仕のひヨ 三曉 一 お坊女う 静ごうら 誰を忠信の
侍ごう 秘合次ごらふノヤ 三曉 一 ヤ 養る 戲ませ 忠信を
お坊女が 静 血赤ごう け 勇の義 經さぬ 成度及 忠信を
おもしうくまひハナ 三曉 一 ヤ 養る 戲ませ 忠信を
お坊女が 静 血赤ごう け 勇の義 經さぬ 成度及 忠信を
成度さんぞと お言ごうら 坊ごうら 坊ごうら 坊ごうら

女を看て 和「イヤお坊さん」親孝りの板の修くは
美麗お成さる子 其のアイサ宅小私やア可憐なて
るう多ひうう 旦那貫州てお呉成と能うて馬
まの 和「エ何れも不存多うう 人雨がよく 妙那守れ
ゆておまごうう 考妙で無内産まは 其のアイサお坊さん
當れれうまり州て 幸極小ぬうーがら七逃むと解へ子
多け所におまヨ 三曉「イヤ 実小 和十さん け極を分底
の能極へ成さる 其のヨノウ 和「エエウ 去年の雲の

目ゆの涙があられまうと何れも極ううの嬢でさる
まのの丹 三曉「イヤ極うういとバ去は和十さんお
添が拵て来て 呉と極の弘りの周處ノ 和「エイ小
倉山の更ておまのまはう 三曉「左極サあぬ化雨の
極も大壯小上極ううと評判ごうう 家内の別様の
酒をへ左極の河て事ううと評判が極ううは合
より早く賣切まはうう 二三日お坊成てお小まうと
此日も坊りりて送河て呉多ひがまきう 同屋へ一杉や

二樽買よもまれ生ひかあの酒の同屋ハ何と稱さ
 ツけのウ 和ハナイアノ 小倉山の茅場町の江流跡あると
 又同屋でござあまはげは度伊丹の新製衣の小倉山
 又酒の酒と酒を一自で賣捌のでござあまはげ代
 おが能の小車候と安く働を續出ーまはとやるとは
 第ハ室小弘りまーとくら大仕合でござあまは 和ハニ
 あの酒の周扇が捲り熱でまらて能画ごうは棄て
 庭まーとハト袋戸 柳より 周扇の竹をとりて地紙



たりり中ーとと又竹はちどろろ張ど柳ののせー
 多と心永く 集束とーとに於れて百枚の能も画とを
 和ハ 和ハイヤとまの 沢山お濁を成
 まーと子 子エ 子エ 子エ 子エ 子エ 子エ 子エ
 画がどまらまは子正ト能念あく
 周扇の能と上よりトハ能念あく
 て能も居るを中よりお園ハ小倉
 山の能扇の地紙を撰出ーと和十

昔よりあるふとつひふあれども人ぞりきある事跡ふ初らん
 ように他あるべし一むとらうとらうと初り多ぶ却て神仏の御徳
 昔に利きありぬべし我の昔周防の肉付は務れ
 英羅羅珠の御事女姓なれども母の志ひを平念あき
 やんといと初度しき山路をいとみず貴船大明神へ巫の
 御後とて初秋とあり初て母の志を全候ふかよびてぞ

嫉妬の悪念を
 初るハ益あるべし

貴船大明神



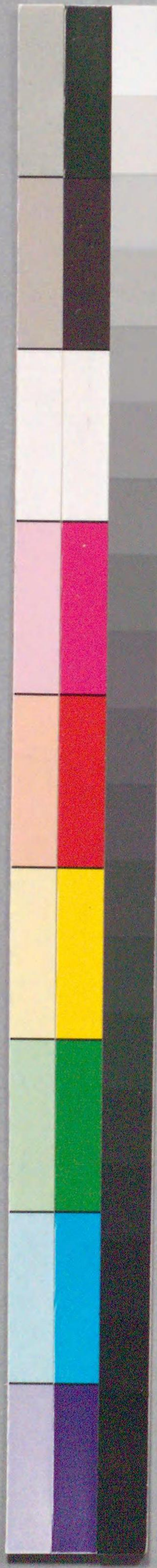
爰の根岸の邑名三曉の隣家の娘お初ハ幸次終て
 世の人の噂も甚まる本庭の多田の美師へ日あを一日も
 欠まむ初秋の信心とて何ゆゑと初るハ被三曉の女房と



途中小落しと帰る一六ままをぐふまねぬ落度そと用
て資後へ引返一業師の門たる大付見れば門の
多安石の辺に流れてあり一田原焼一云ん方も多拾ひ
無んとする更之横念多花うを奪ひふる曲者あり
流小ゆゑの飯も多とけり引をおぼか旅掛の
あつちや一私が今落しこの言ト云つ見れば酒流て月
まをひくる宿り一非人のさも悪く一まん念あるが
なく立り一ハヤ一娘はまんを奪や今しづる他の合

落しこの言門糸の十る四方へは男が酒りの押除物
づら落敷りのへ何でもあ残け身の垢ぬふるの
をま入流の甘味るをまされて一あるものろサテく
せく一まへ一まへ一私か今この美師ま入お
中か賽の砂をよてう一ア一賽の砂を二女上てナ
との中糸を拾へば海をで鯛ようも能仕業いふトあり
早くお場が懐かた持て入一巾糸の紐を引出奪
いんとまらお場へおられしを奪入は別も其は自のを是

5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71 72 73 74 75 76 77 78 79 80 81 82 83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93 94 95 96 97 98 99 100





うきをちり
袖佛を初り必笑ふあり
異しけほどそきか
とあるふん
とあるふん



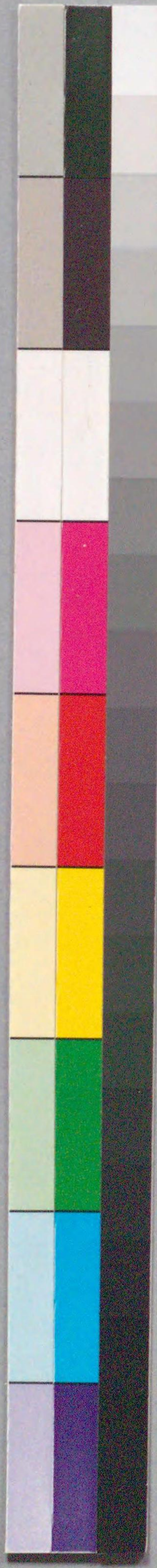
曇り煙草の人も終るお悪き見使倅と云宿のお
 場をま所へ突倒し合の入る中を引さうて大
 勢をひ方の中へを交限り地付びつ進まかり引止
 ちの裏の及於更人の煙草多く果以難き悔さし方
 様とをい言ごまひけ中ら私のごトカを極めてお入
 臨作せんともるおを押へ 引け女アかまうい物
 け身が先へ着留まものを妻人の癖の押が後ト又さう
 るせ一生懸命オトと極川で放さぬせお宿の後まお

の身を捨り久と突飛し倒る透るの金入をさりか
 ると放さうと思ひて置と踏換り堀の深なる深堀へつひ
 落るる西を非人の付込換り金入を法引奪
 かんともおわくも堀の扉戸内より門を踊りかゝる一個
 の男は天授引身持の聖をそれと刃るよう云宿の於
 發掘んで投出しをうけて置お踏付け 男下ライ娘
 何ぞおられのお多ひッ ハイイまおお柄七居まア
 ト泣きしそ泥水の中より送上る男の非人を



片屋の七八度遊ばし 男ハヤク大獲量を得て
まご日も暮れ申す 種家の者を盗みしや
盗人久トゆつつか 盗をいさつりあつたその様子を
くも園屋のおしも 権の申すをうけて立出
一個の息子を 盗みし十六才をりまも人衆より
髪風信 下ヲと 鉄をヤその娘をア 盗入て
然世徳を してきん多 他人が見てはまご 盗り
衣類も 泥ふる門の 盗り 盗りも 盗り 盗り

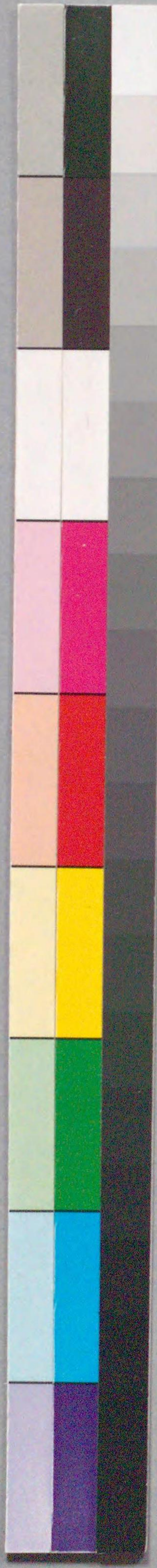
ト案社あれども 大家の子息仁義の心 依りて
初め 疾の弟といふ男 疾下 若旦那の 耳も入り
たり子ナ子 室は早く 盗り 盗り 盗り 盗り
せんものヲ け 盗り 盗り 盗り 盗り
盗り 盗り 盗り 盗り 盗り 盗り 盗り 盗り
て 盗り 盗り 盗り 盗り 盗り 盗り 盗り 盗り
盗り 盗り 盗り 盗り 盗り 盗り 盗り 盗り
盗り 盗り 盗り 盗り 盗り 盗り 盗り 盗り





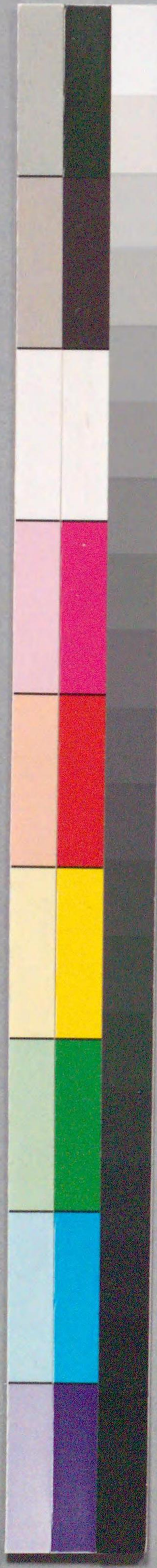
娘也むすめやちかひ方かたへ来きてノそのまじろまじ様さまとあはれれのを洗あらう様さま
 落おちせるはるむのあらむ人ひとをまゝあらむあらひか方かたへ来きまます
トろろううナ二目めをあらむまはらむ早はや疾はやふるりまはらううけを後あとで
 宅うちへ来きりまはらヨト立た上うりしが横後よこごとりあの岸きしゆで
 ちちろろうう息いきの通ひの道みちうらううぐぐううらうむむを再度またようら
 りきりりとます一が痛たまくト惱なむを抱かへ撲ふすらひ
 て疾はやみ希疾はやハイトあらむいまと何様どうとくこれで
あらむて降ふまるものうらううくあらむ目めの身作み通とり

お美みでもあらむひま成なトゆいらうう抱かまし一はらむ板い橋はしの中の
 庭によりあらむの方極き端はを保ひの極きの上のお橋はしを下り
 疾はや下り善よ且かつ那な木き戸と共どもアラムメをまさうねん疾はやハイ左さ極き
ふ用よう心しんざううメて異を成トゆいらうう圓まりけ疾はやみ希ハイ元げん
 の扉の中よりしと往来わうらいとます一現げんる早くを宿しゆくの
 何なにもなく迹まます一極き子こゆえ戸とをます一壁かをて庭にあ
 らむハイ疾はやハイト側へ来きまます一アノ今いま
 おのまま左さ極きゆうまま疾はやハイアノ今いまはらむを居す



風^{ふう}入^い入^いき^きを^をま^まん^んぢ^ぢや^やア^アね^ね入^いり^りそ^そし^して^て着^まか^かせ^せて^て
 着^ませ^せて^てけ^け泥^{どろ}ふ^ふり^りの^の着^まか^かせ^せて^て何^{なん}れ^れう^うと^とま^ます^す
 困^こら^らし^しめ^めば^ば身^みの^の着^まか^かせ^せて^て男^{おとこ}の^の衣^い履^履を^をう^うら^らう^う
 見^みあ^あく^くく^くら^らふ^ふけ^けま^まご^ごも^も途^と中^{ちゆう}に^に着^まか^かせ^せて^てお^おも^もい^いせ^せて^て
 左^{ひだり}極^{ぎやく}サ^サ保^ほ宅^{たく}が^がを^を所^{しよ}ら^らる^るが^がす^すあ^あら^らせ^せて^て
 ま^まの^の衣^い履^履を^をり^りの^の邊^へに^にま^まを^をら^らし^しめ^めて^てお^おも^もい^いせ^せて^て
 極^{ぎやく}ら^らそ^それ^れが^が能^よく^く疾^{はや}一^{いつ}ア^アノ^ノお^お茶^{ちや}の^の宅^{たく}に^に何^{なん}れ^れも^もな^ない^い
 振^お寄^ぎで^でお^おま^まり^りう^う余^{あま}程^{ほど}を^をふ^ふご^ごお^おま^まり^り

根^ね寄^ぎで^でそ^それ^れの^の大^{おほ}変^{へん}ど^どト^トお^お女^{にょ}の^の於^お代^{しろ}代^{しろ}片^{ぺん}
 小^こ湯^ゆを^をお^おか^かし^して^て次^{つぎ}の^の男^{おとこ}より^{より}顔^{かほ}を^を出^だし^し
 お^お風^{ふう}呂^{りよ}が^が痛^{いた}ま^ます^すと^と左^{ひだり}極^{ぎやく}の^の側^{わき}に^にお^おか^かし^して^て
 浴^ゆ室^{しつ}へ^へ速^{すみ}に^に移^{うつ}り^りて^て洗^{せん}ひ^ひを^を上^{うへ}ま^まに^にお^おか^かし^して^て
 廻^{まわ}り^りて^てお^お湯^ゆの^の側^{わき}へ^へ来^きり^りて^て立^たち^ち洗^{せん}ひ^ひを^をお^おか^かし^して^て
 手^てお^おか^かし^して^て風^{ふう}呂^{りよ}へ^へ傳^{つた}へ^へる^る湯^ゆを^をま^まら^らせ^せて^て泥^{どろ}を^を洗^{せん}ひ^ひを^を
 洗^{せん}ひ^ひを^をお^おか^かし^して^て世^よ話^わを^をま^まら^らせ^せて^てお^おか^かし^して^て何^{なん}れ^れも^もな^ない^い
 是^{こゝ}非^ひず^ず臭^{くさ}い^い息^{いき}子^この^の衣^い履^履を^をう^うら^らう^うと^とま^ます^す



そふか産安ふひのり 息子と決み糸の方へ首を下て
まき下 寔かモウありぐらふ あざおまふト氣の毒をふ
頼をさひけて言ふすけりきき 風情 決み糸の笑顔
光 蠟燭をゆきく 疾し 志若目船余程不覺らふ
娘をおさつおまたげト人々 息子も笑ひ顔 刺さ布
うらふふ 電燈をふふト お隣の糸を債と看らふが可
か赤いまは 雷音も赤の注春亭へ四五人連でおあそ
あ ちからふ子ありもき何處扇の画を次山ありて 弟て此酒の

世に種々画と程分の評判せしと 友の常ふ 凡か
吹てきき扇の画を外の産安や産へ吹散しとあそ
あ ちからふ子し 主付 糸の居る産安へも 五枚収め
て 糸ののし拾ひ 集めて お赤い上とつけが おあれりへトい
つれて 娘の顔を上げ ます 一ツヤ左様で 糸は産まうとら
おへまらもう 糸が 付をせむふ 居まうと 三ツト 顔赤ら
りく 息子の方を看る 眼も 思ひのありげありけ付 息
子のまわり 笑の方へ 由程よく 産安の地紙の画を拵



出しかば坊のあふまき〜
 まう、早本三小倉山とりん落酒の
 お〜久と為扇ごらう 江嶋とりの上出と今一度之
 御幸待南よの文章我公おれりて馬このごのふす 奇
 妙の西も再令ご子立 洗一早由のりるるひ若目形ごモシ
 此後ハ手三編ふ成てお異を成ま〜此徳を養ふの
 かあづけふり〜ませう。ア〜
 玉はを宛算二編三丁



揚太真遺傳
 精製桐の箱入
 女香
 一廻り
 百二十文

七生堂愛りて生来かた秘小色を白く肌目細小なる功能有り志は
 分も功能は依之は指指を店宛下も久しもの此口上搦と看海平
 用ひるても忽ち小功能の野も妙業あり一廻り用ひるひて大徳の

208
12
705

所弘賣

色自然と様の花の如くあり二重り用ひるるゆへ根小く元症の肌目
も羽二重の如くはさきしづりしものさうじぶの山をびのそをさ。腫物の跡
あまの如くもさきしづりしものさうじぶの山をびのそをさ。腫物の跡
は玉振香をまじりしものさうじぶの山をびのそをさ。腫物の跡
素面の白くらしき根小く元症の肌目
あひても自らさきしづりしものさうじぶの山をびのそをさ。腫物の跡
美人とありあるべし

為永春水精劑

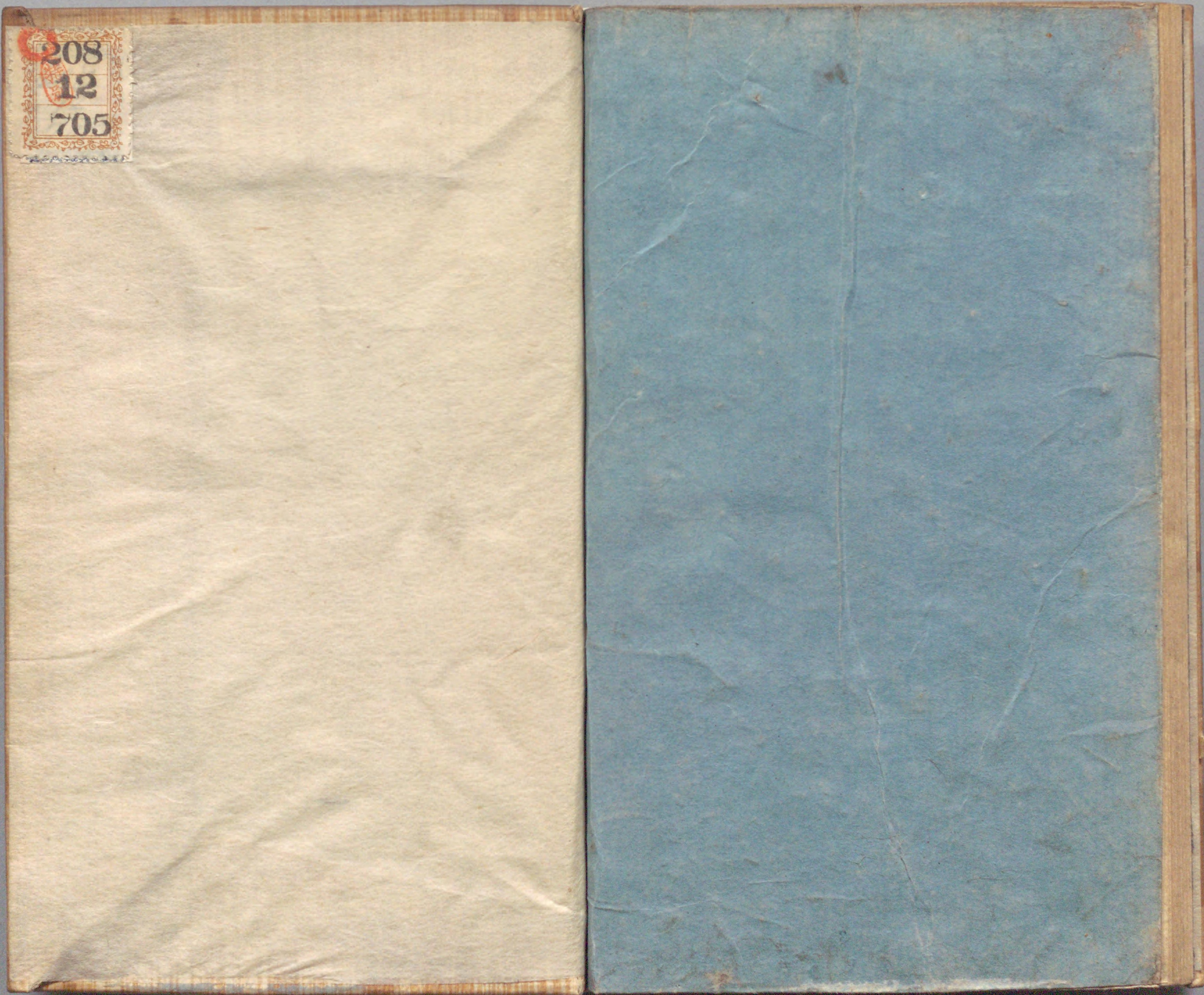
妙藥 初みどる

書物并繪入 讀本 問屋 江戸京橋跡左衛門町東側中程 文永堂 大嶋屋傳右衛門

和漢軍書繪入讀本故の貸本類
吉本木品く汲山、取持仕の付本類
格別下並にお働是上中の間不限
多少の沙求り下下は編を希い

京橋南中通り弥丸馬町

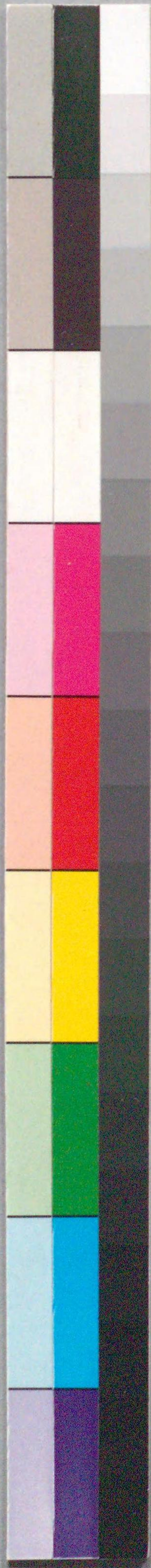
文永堂 大嶋屋傳右衛門



国立国会図書館 娜真都翳喜 4編 208-705

ガラス使用





国立国会図書館 娜真都翳喜 4編 208-705



ガラス使用

